

# 金大中氏に死刑を許すな！

金大中氏に対する無期刑の確定を許さない！

すべての学生、教職員のみなさん！

1月23日、韓国大法院は金大中氏に死刑判決を下した。さらに数時間もたなないうちに、全斗煥は金大中氏を無期懲役に、そして他の被告を5年から15年の懲役に減刑した。

一昨年10月、朴正熙が権力内部の暗闘の中で暗殺されて以降、朴以後をめぐる情勢の激動の中で、一方では全斗煥を領袖とする朴なき朴体制をめざす軍内部の勢力と、金大中氏が<sup>奮闘</sup>となる民主化をめざす勢力との攻防が最も激烈に現われたのが、昨年5月の光州市民の決起とそれに襲いかかった陸軍特戦団の斗いであった。

一昨年、13年にわたる朴の暗殺をひき出した釜山・馬山の決起は、30.4.19革命の伝統を引き継ぐものであり、それが昨年、4月慶熙炭鉱における労働者の決起、さらに5月の学生の決起へと大きな流れとなっていました。5月、学生たちは民主化への叫びをこめてソウル市街を埋めつくす10万人のデモンストレーションを斗い、まさに4.19の再来を思わせた。一方、朴暗殺後自由を回復した金大中氏は、民主化に向けて活発な政治活動を再開していた。まさに、ソウルの春近い、であった。

他方、一昨年12月の肅軍クーデターで軍内部と情報部を掌握し、体制内反対派の一掃に成功した全斗煥はたかまる民主化へのうねりを前にして一挙的に事態を開拓すべく、非常戒厳令の全土への拡大、そして朴体制下の与野党政治家の大量逮捕に踏み切った。この軍部の蛮行に対して、韓国の斗う民衆は身を震わせて怒り、その怒りが光州において爆発したのであった。この斗いは、数千人に及ぶ死傷者を生み出すという形で

全斗煥によって弾圧された。しかし、斗いの炎は必ずや全斗煥が倒されるまで続くであろう。

金大中氏をめぐる全ての取り引きを許さない！

韓国の民衆の斗いのその要としてある金大中氏の死刑は、彼個人に対してではなく、斗う人々全体への弾圧なのだ。死刑をもって斗いを圧殺しきろうとする全斗煥と、その全斗煥に対して積極的な形でテコ入れを行なう日本政府。軍事的には韓国を日本の防壁となり、経済的には日本の市場であり、また安価な労働力の確保の場と位置付ける政財界は、全斗煥による金大中氏死刑を承認し、さらに韓国を日本に従属させるべく努めてきた。しかしながら、急ピッチで進められてきた

大中氏らの裁判は、全世界が注目する世論の前に、12月、処刑を延期せざるを得なくなった。これは、死刑廃止に向け昨年末様々な行動をしてきた人々全ての勝利である。

この様な韓国国内、或いは全世界の人々の声の前に、全斗煥は日米両政府に対する取り引きを持ち出してきた。金大中氏の命を助ける事の交換条件として、新たな借款の供与と古米の緊急輸入さらに将来の借款の繰り延べを行い、既に日本政府はその実現に向け動き出している。経済的には日本の、軍事的には米国の援助を引き出した全斗煥は、最終的な調整を訪米によって果たそうとしている。金大中氏らへの救援運動の昂まりを歪曲し、金大中氏の政治生命を葬り去らんとする策を許さず、金大中氏らの完全解放まで、全斗煥をその後援である日本の政財界を追いつめていく。

斗いは始まったばかりだ。共にやれん！

-----講演会への結集を-----

巻をむくる韓国民衆の闘い、今我々は――

2-4 京都講演集会

2月4日(水) 6時へ

於：某友会館

講師：山川暁夫氏

(評論家)  
主催：京都緊急行動  
実行委員会

通路

東

山

通

路

北

丸太町通

# 同学会聚義行動隊